

会 議 録

会議の名称	平成30年度第2回行田市総合教育会議
開催日時	平成30年12月14日（金） 開会：午前10時00分　閉会：午前11時35分
開催場所	行田市産業文化会館 第2会議室
出席者（委員）氏名	工藤正司市長、鈴木トミ江教育長、岸田昌久委員、 鹿山高彦委員、増田雅久委員、大久保英子委員
欠席者（委員）氏名	なし
事務局	学校教育部：門倉学校教育部長、荻原学校教育課長、 諸貫教育総務課長、櫻井学校教育部副参事 金野学校教育課主幹、白井教育総務課主幹 生涯学習部：吉田生涯学習部長 総合政策部：樋口総合政策部長、岩田企画政策課長、 五十嵐改革推進室長、川上企画政策課主幹 渋澤企画政策課主任
会議内容	議事 （1）学力向上について （2）学校の適正配置について （3）その他
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議次第 ・ 総合教育会議構成員名簿 ・ 総合教育会議席次表 ・ 資料1 学力向上について ・ 資料2 小中学校の再編成について ・ (参考資料) 行田市教育大綱 ・ (参考資料) 行田市総合教育会議設置要綱
その他必要事項	傍聴者 1名

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司 会	1 開会 2 市長あいさつ 3 議事
司 会	<ul style="list-style-type: none"> ・続いて、次第の3「議事」に入る前に、会議の公開・非公開に関する取扱いについて確認させていただく。本日の会議は、議事の中で個人情報を取り扱う予定がないことから、原則公開とさせていただく。また、会議録の作成は要点筆記とし、委員名を明記の上、市政情報コーナー及び市ホームページにおいて公開させていただく。 ・それでは、本日の「議事」に入る。進行については要綱第4条第1項の規定により、会議の議長は市長が務めることとなっていることから、ここからは工藤市長に議事の進行をお願いする。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、暫時、議長を務めさせていただく。はじめに、議事の（1）「学力向上」について、事務局から説明をお願いする。
事 務 局	<p><資料1により説明></p>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ただいま事務局から「学力向上」について説明があったが、ご意見やご質問があればお願いします。
大久保委員	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上が少しずつ図られてきているということで、今後もさまざまな策を進めてほしい。 ・課題として新聞に触れる児童・生徒が少ないとのことであったが、市町村によっては、子ども新聞を学校単位で購読しているところもあると聞く。新聞への親しみを課題として挙げるのであれば、どのくらいの家庭で新聞を購読しているのかを把握する必要があるのではないか。 ・現状は80%以上が宿題をきちんと行っているとのことだが、学習の質や理解度の目安として、宿題に取り組む時間が重要だと考える。学校では宿題に関わる時間についても把握すべきではないか。 ・学期末に行われる懇談会を、先生と保護者とのコミュニケーションの場として有効に利用してもらいたい。また、保護者の参加が望めるような内容にすることも非常に重要だと思う。
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、市内新聞販売店のご厚意により、小学校へ新聞を毎日届けていただき授業に活用している。学校によっては、新聞記事の内容を読み取って書く活動を行っており、今後も子ども新聞の利用

	<p>を含め、最適な学習への活用方法を検討していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿題に取り組む時間の目安としては、小学校低学年で20～30分を想定している。宿題の内容によって長短もあると思うが、学校ではまとめの時間を設けることや類似問題を解かせることにより、授業で内容をしっかり理解させて、宿題に取り組めるよう配慮している。 ・期末PTAの学級懇談会については、場合によっては保護者の出席率が3割程度の学校もあった。子どもたちの学習成果発表会を同時に開催している学校もあることから、学級懇談会に多くの保護者に参加していただけるよう、今後も内容については工夫していきたい。
<p>議長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーレス化が進む中、新聞に触れる機会は減っているように感じる。新聞購読の状況について把握し分析すること、新聞を活用することが重要である。
<p>岸田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上については、先生たちの努力と子どもたちの努力により、少しずつ成果が表れていると感じている。学力の伸びの状況についての資料によると、最下位層の児童・生徒においても学力の向上が見られ、つまずいた子供たちに対してもしっかりと指導していると見て取れる。学力の全体的な底上げはもちろんだが、教育の本質として、勉強の苦手な子供たちを切り捨てるようなことはあってはならない。 ・研究指定校による研究発表に参加できる教員が、学校長など一部に限られてしまっている。都合で仕方がない点はあると思うが、通常の授業時間中に研究発表が行われており、研究成果が多くの先生に浸透しづらく、事例を学べない状況にある。こうした状況の中で、うきしろスタンダード映像版の活用は良い教育事例の共有という点でも素晴らしい取り組みであり、ぜひ有効に活用していただきたい。
<p>議長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学力については少しずつではあるが結果が出ているということは、現場の先生たちの士気も高いのではないか。
<p>教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校環境の整備やうきしろ先生の配置等により、行田の学校はどこも非常に落ち着いた雰囲気で行うことができていると感じている。一方で、知識の応用や読解力向上が課題であり、学力の伸びについても比較的順調な小学校における教育を中学校にまで広めていくこと、小学校教育と中学校教育の良い点の共有が、今後の改善点であると考えている。

鹿山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・研究機関の調査によると、学習内容の半年後の記憶の定着について、他人に教えることで定着率が90%になるといわれている。また数学の問題では、関係のない数字を問題の中に盛り込んだり、回答が不可能な問題をあえて設けることで、問題を解くために必要な数値を見極める力も養えるなど、知識の活用や応用に非常に効果があるという調査結果もある。今後、さまざまな方向から授業内容の充実に努めていただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・人に教えることが記憶の定着に非常に有効であると認識している。各学校ではグループによる対話の中で、お互いに教え合う授業に取り組んでいきたい。
増田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・先生によるわかりやすいノートや板書は授業の理解に大いに役立つと思うが、先生や児童・生徒の負担とならないか。また、板書を写すことに一生懸命になりすぎて、授業を聞くことがおろそかにならないか心配である。 ・パワーアップサポーターと担任教諭とが協力して取り組むことは重要であるが、あまりパワーアップサポーターが前面に出てしまうと、担任教諭に指導力がつかないのではないか。子どもの学力向上が一番であるが、先生のさらなるステップアップにつなげるような仕組みが必要なのではないか。また、パワーアップサポーターについて、児童・生徒にはどのように説明しているのか。 ・一部の塾では、特定の教科に力を入れないなど、受験対策として解法のテクニックを中心に指導していることもあると聞く。各学校の先生は、生徒が塾でそのような指導を受ける中で、どのような指導を行っているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・先生に対しては、年度当初にノートの作り方、板書のノートへの書き方について指導を行っている。また、児童・生徒も低学年の時に一度身につければ、高学年になってもノートの書き方は応用できるため、大きな負担にはなっていないと考えており、学校では家庭学習や自主学習にも活かせるような、自分で学べる力を身につけさせる授業に取り組んでいる。 ・パワーアップサポーターについては、新人教諭向けの師範授業や、人数を半分に分けての授業も行っており、単元の特性や授業内容により配置を考慮している。また、子どもたちにとっては「先生がもう一人いる」ことで、分からないことはすぐに近くの先生に聞くことができるなど、安心感をもって授業に取り組んでいるものと考えている。

議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・学校では解法のテクニックではなく、なぜその公式を使うのか、なぜこのような解き方をするのかといったことに力点を置いて、理解度を深められるような指導を行っている。 ・児童・生徒の確かな学力を身につけさせることは非常に重要であり、教育委員会と教育現場の校長及び教員の一層の連携を図り、分析結果による弱点克服のための取り組みを徹底するようお願いする。 ・次に、議事の（２）「学校の適正配置」について、事務局から説明をお願いする。
事 務 局	<p><資料 2 により説明></p>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ただいま事務局から「学校の適正配置」について説明があったが、ご意見やご質問があればお願いする。
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・複式学級については、授業時間の半分をその学年の授業とし、もう半分は他の学年の授業のため自習とするのが通常だが、行田市では複式対応の非常勤講師を配置し、複式でも学年を分けてそれぞれ授業を実施するなど、手厚く指導を行っている。マンツーマン指導になって良いという意見もあるが、児童同士で話し合ったり、教え合う経験ができないことが課題であり、子供たちが切磋琢磨できる環境を作ってあげることが重要である。 ・基本方針案の中で、義務教育学校、小中一貫型学校施設分離型、小中一貫型学校施設隣接型とさまざまなタイプが明示されているが、それぞれの違いについて丁寧に説明する必要があるのではないか。また、一貫校となった場合、教職員の人事や国の設置認可についてはどのような予定となっているのか。
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> ・人事については、将来的な統合を見据えた計画的な人員配置に努める。また、設置にあたっては国による認可は不要であり、市の条例改正等で可能である。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・特に北部地域については喫緊の課題である。その他の学校については 2054 年度までと大変先の長い見通しとなっているが、社会情勢も踏まえながら、前倒しも検討する必要があるのではないか。
教 育 長	<ul style="list-style-type: none"> ・社会情勢、人口構成、教育課程の改訂等も考慮しつつ、常に見直しの検討を行っていく。

鹿山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちがお互いに切磋琢磨し成長していくためには、クラスメイトの存在は非常に重要である。また、子どもたちが多くの人たちと関わり合うためにも、数年ごとにクラス替えがあるという状況も同じように大切であると思う。 ・小規模校にもメリットはあると思うが、ある程度の規模で学校生活を送ることが、子どもたちの成長に欠かせないことから、今回のような学校の再編成は避けて通れない課題である。子どもたちにとって、最善の教育環境の構築を目指すという点を第一に考えてもらいたい。 ・義務教育学校となった場合、小学校教員免許と中学校教員免許の取扱いはどのようなになるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・どちらか一方の免許保有教員では、対応する学年のみしか指導することができないため、将来的には、小学校教員免許と中学校教員免許の両方を有する教員を配置したいと考えている。
鹿山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・最近では通信教育でも教員免許が取得可能であると思うので、ぜひ多くの教員の皆さんに協力いただきたい。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の適正配置については、子どもたち中心で考えていかななくてはならない。複式学級によってマンツーマン指導が可能になっているという意見もあるが、集団生活による環境への適応や友人関係の構築、競争意識の醸成という観点からも、ある程度の規模で学校生活を送ることが子どもたちにとっては最善であると考え ・再編成についてはまだ審議会で検討中であるが、今回の総合教育会議の意見を踏まえて、審議会にも具申いただきたい。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、私の方から何点か、学校の適正配置を進めるにあたり、以下のことをお願いしたい。 ○複式学級が生じている学校については、スピード感をもって対応してもらいたい。 ○児童・生徒数の将来予測はもちろん、施設の耐用年数による更新時期等を考慮してもらいたい。 ○児童・生徒の学習環境を第一に考えるとともに、特色ある質の高い教育を提供できるようにしてもらいたい。 ○児童・生徒の通学手段と通学路の安全を確保してもらいたい。 ○学校が地域コミュニティの核としての性格を有していることを踏まえて、統廃合後の跡地利用については、地域住民の皆さんの意

議 長	<p>向を尊重しながら検討してもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先ほどの教育委員の皆さんの意見も含めて、総合教育会議の意見として事務局には認識していただき、学校の適正配置を進めていただきたい。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・次に、議事の（３）「その他」について、事務局及び委員の皆様から何かあるか。
	<p style="text-align: center;">＜特になし＞</p>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、これにて議事を終了する。教育委員の皆様には、スムーズな議事進行にご協力を賜り、ありがとうございました。 ・これをもって議長の職を解かせていただき、事務局に進行をお返しする。
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> ・以上をもって、行田市総合教育会議を閉会とする。
	<p style="text-align: center;">＜ 閉 会 ＞</p>